

# 1. 評価報告概要表

平成20年7月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1175100799
法人名	株式会社 アイム
事業所名	グループホーム健康倶楽部新座
所在地	〒352-0005 埼玉県新座市中野1-5-5 (電話) 048-482-8286

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年6月23日

## 【情報提供票より】(20年6月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 14人, 非常勤 5人, 常勤換算 17 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨造り
	3階建ての2階～3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	25,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
または1日当たり 1,500円				

### (4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低 68 歳	最高 93 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新座志木中央病院、中島病院、健支会(歯科)
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの目の前の道路は交通量が激しく車の騒音もあるが、反対側が閑静な高台になっており、ホームの3階から行き来ができるようになっている。その地の利を活かして3階から外部へ出ることができ、散策路への途中には畑やベランダがあり、利用者が自由に野菜や花づくりに取り組んでいる。ホームの中には広い台所とリビングを中心とした住み心地のよい空間となっており、利用者は思いおもいに過ごすことができている。ホームの1階にはデイサービスが併設されており、利用者はデイサービスに自由に参加したり、職員がデイサービスの看護師に相談したりするなどの連携が図られ、施設の多機能性を有効に活用している。職員は熱心に支援しており、利用者中心の生活を実践し、穏やかな声掛けでプライバシーを尊重した丁寧な介護をしている様子が伺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>玄関に前回の評価が掲示してあり、いつでも見られるようになっている。前回の改善点であった居心地のよい共用空間作りに関しては、共用スペースの窓が開け放たれ、明るく風通しも良くなっており、利用者や職員の話し声が聞こえていて心地よい環境が用意されている。もう一つの改善課題であった地域密着型としての理念を作り上げるという課題については、職員全体の共通課題としての理念にまで高める作業には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価を記入したのは前所長であり、新所長が評価の実施時の対応をすることになったため、今回の評価に向けての職員間での話し合いまでには至らず、改善への取り組みも行うことができていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>以前は自治会や行政、家族や利用者本人が参加した運営推進会議が季節ごとに開催されており、地元自治会の協力で3階から外部への散歩道をアスファルトにしてもらうなどの成果があったが、昨年から今年度にかけては、開催できない状態が続いている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者ごとに担当職員が付き、利用者一人ひとりの近況について毎月のホーム便りと一緒に送付し報告している。また、家族会があり、行事などは一緒に行い、家族からの要望も個別に出来る限り対応できるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、自治会の行事に参加したり、ホームの行事を自治会の回覧板で知らせる参加を呼びかけたりしている。また、近くの女子大学から実習生を受け入れている。利用者は1階にあるデイサービスのレクリエーションやサークル活動などに自由に参加することができ、地域の利用者とふれあうことができている。さらにデイサービスに音楽や踊りのボランティアが来て披露するときには一緒に参加するなど、地域とのふれあいの機会が日常的にある。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて全職員で作り上げた分かりやすく実践しやすい事業所独自の3つの理念があるが、地域密着型の理念にはなっていない。		全職員で話し合い、その人らしい暮らしに地域性を意識した文言を加え、地域密着型サービスとしての理念を加えることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を基に全職員で話し合いをしてホーム独自の理念を作り上げ、各フロアの入り口に掲示をするなどして周知し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事に参加したり、ホームの納涼祭などは自治会の回覧板で知らせるなどして地域の方にも呼びかけ、交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営に関しては所長、ケアに関してはホーム長と分担して記入したが、所長が交代したこともあり、お互いの評価を話し合う機会も無く、評価を活かして改善に取り組むまでには至っていない。		所長も新しく決まり、今後の評価について職員間で再度見直しをして共通認識を持ち、具体的に日々の改善に取り組まれていくことに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者や家族、行政、自治会の方などが参加している。平成18年度までは季節ごとに開催しており、砂利道だった利用者の散歩道をアスファルトにしてもらえるなどの成果があったが、平成19年度からは会議の開催ができていない。		成果が上がってきている会議を継続して開催することで、地域の関係者との連携が強まっていくことと思われるので、早急に運営推進会議を再開し今後につなげていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、市役所に相談に行き直接指導をもらっている。状況によってはFAXを使用しての迅速な対応をし、連携を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホーム便りと金銭管理の報告をしている。また、それに併せて、担当職員が利用者一人ひとりの写真と最近の暮らしぶりなどについての報告を毎月行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から訴えや要望があった際は出来るだけ実現できるように取り組み、その結果を家族にも報告している。職員へは、連絡ノートで報告し共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多く、利用者や家族が不安になることを考えて説明は控え、質問があった場合は説明するようにしている。		利用者との関係を良好に保つためにも、離職時に利用者や家族に説明することで職員の退職を受け入れることにつながる。今後は、離職に際しての家族や利用者への説明や挨拶などの工夫が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務が優先し、外部の研修に参加したり内部研修をする機会が無い。働きながら先輩の職員が後輩に伝えたり教えたりするトレーニングは行われているが、組織的な運営にはなっていない。		法人で特別養護老人ホームを開設し、今後はホームと施設の職員間で交換研修を行う予定もあるとのことで今後が期待される。より専門的な視点でケアが行われるよう、計画を立てるなどして研修の機会を設け、職員と法人本部との情報の共有や意識の統一を図ることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームにイベントのお知らせなどをして参加を呼びかけたり、情報をもらったりしている。他のホームからの見学なども行われ交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>所長との面接をするとともに、ショートステイを利用してもらうなど本人が馴染めるような工夫と、スタッフ全員が対応出来るような取り組みに努め、利用につなげるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>担当が利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、話や要望を聞くようにしている。また、一緒に片づけをしたり、畑を耕したり、散歩をしたりするなど日々の生活を共に過ごしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が利用者の意向を決めずに、一人ひとりに極力耳を傾けるようにして、本人が何を望んでいるかの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を元に介護支援専門員がケア計画を立て、職員間で回覧することで共有している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>フロアごとに介護支援専門員がおり、定期的に見直しを行っているが、気付いた職員の意見のみで変更が行われるなど、職員間で話し合っただけの見直しには至っていない。</p>		<p>本人、家族、担当職員、フロア長、医師等の意見を聞き、必要な関係者と話し合いを経て計画を作成することが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にデイサービスがあり、利用者はイベントに参加したり、好みのレクリエーションやサークル活動などに参加することができる。また、デイサービスの看護師から健康管理についてのアドバイスを受けたり、職員の応援をしようなど多機能性を活かした支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望するかかりつけ医となっている。フロアごとに2週間に1度の往診があり、緊急時はかかりつけ医の携帯電話に連絡することも出来るようになっていく。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで2件のターミナルケアを行っている。利用者の状態の変化に伴い話し合っているが、早い段階からの話し合い、対応ができるまでには至っていない。		今後は入居時など早期から、本人、家族等の希望を確認するなど話し合いを重ね、方針を統一し共有していくことが望まれる。また、家族会を活かし、ホームの対応や家族の協力体制などについても話し合うことで、共に終末期への思いを共有していくことを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助にさりげない声掛けを行ったりするなどプライバシーに注意しながら支援している。また、個人情報についても、記録をとる際、まわりに見えないようにするなど工夫するとともに、目に付かない所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に、過去の暮らしを聞き取って生活に活かしている。また、その方の望む暮らしが出来るように、日常の会話や生活からも本人の希望を察するように注意しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所が開放的でリビングとつながっているため、手伝えない利用者でも音や匂い、雰囲気から食事が出来上がるのを楽しめている。テーブル拭きや茶碗拭き、時には料理の下ごしらえなど出来るところは一緒に行い、職員と一緒に会話をするなど楽しく食事ができるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後行われている。利用者の希望があれば毎日でも入浴が出来る。車椅子の利用者には、バスボードを使って湯船にも入れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が「役に立っている」と感じ、自分がいる意味を確認できるような支援をしている。出来ることをサポートして「出来た」という達成感を感じてもらえるような働きかけを心がけており、利用者の行いに対して『ありがとう』など言葉を必ず返し、生きることに向きになってもらえるような支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLが下がり、買い物や散歩の時間が確保できない状態になってきているが、広い屋上に出たり、1階の庭に出かけて花を採ってきたりと、利用者に合わせ日々の生活の中で外気と触れる時間や方法を確保するなどの工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室に鍵はかけていない。注意が必要な階段やエレベーターにも鍵をかけずに対応できるようにしているが、職員からの死角になっている3階から外部へ通じる門扉にのみ鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市の消防署等の協力を得ながら、毎年避難訓練を行っている。また、地域の住民にも声をかけ、協力を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目を摂るように心がけ、水分の不足しがちな方にはゼリーやヨーグルトの提供をしている。ご飯の量も一人ずつ変えてあり、摂取量はケース記録に記入している。法人の特別養護老人ホームの管理栄養士に献立内容や栄養量などのチェックをしてもらうことも検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階建ての建物の2・3階がホームになっている。ベランダがたくさん取っており、また、散歩などは3階から出られるようになっている。ベンチもゆったりとした感じで随所に置かれており、リビングに接している広い畳の部屋や廊下の突き当りには大きな窓がある。窓の下は作りつけのベンチになっており、利用者の手作りのクッションが置かれ、明るく開放感があり、くつろげるような配慮が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵手紙をしていた利用者の部屋には、絵手紙仲間からの寄せ書きの絵が貼られていた。また、位牌を持ち込んだり馴染みのものを配置することで居心地よく過ごせるように工夫されている。		